

事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人アシストさいたま
活動名	子供の笑顔のための地域事業！（学習支援や水泳指導ですべての人の心を豊かに）
助成事業の種類	SDGs推進活動助成 人間分野
事業の目的	
教育(スポーツ)格差解消、居場所づくりを主な目的として、地域でこれらの課題に取り組むことを目的として支援事業を行いました。	
①地域の子供たちへの学習支援…コロナ禍からの学力格差、運動能力格差、親の収入格差によることなく、子供たちに教育を受ける機会を提供し、やればできるという喜びを感じてもらいたい！！小さな喜びが大きな財産となります。子供たちを笑顔にすることで、そのバックにある大人たちも笑顔にすること！	
②海なし県さいたま市における水泳教室…海なし県さいたま市における水泳授業がどんどん切り取られ、泳げない子が多くなっています。市民プールさえも奪われ、地震や水害がいつ起こるかわからないこの時代において、泳げないことは危険なことです。地域課題として泳げない人を一人でも減らさなければなりません。	
③地域での居場所づくり(教育支援、教育相談、コミュニティ、コミュニケーション作り、コロナ後の心のケア)…	
イベントを開催することで、ここに居場所があるよ！！いつでも来て良いんだよ！！というメッセージを発信します。イベントでは多くの笑顔が見られます。	
事業で取り組んだ地域や社会の課題	
子供たちの明るい未来のためには、地域全体で子供たちを見守り、支えていく必要がありますが、現実には、行き場を見失っている子供たちがたくさんいます。	
物価は上昇し続けていますが、賃上げによる恩恵を受けるのは大企業のみで、一般庶民は物価上昇などの影響をそのまま受ける苦しい状況が長く続いています。	
生活費を切り詰めるには子供の教育費を切り詰めるしかないというのが現状です。貧困のループを断ち切ることも必要です。生活保護まではいかないが	
ギリギリで生計を維持している家庭はものすごく多く、教育を受けたくてもそれが叶わず、勉強やスポーツをあきらめる子が多いようです。	
そういった状況を少しでも改善できるのは地域の大人の役割なのではないかと考えます。ものすごく困っているわけではないから、市政に相談することができない。	
母子家庭だから平日は子供にかまっていられない…など、気軽に親の相談事も聞いてあげられる居場所が必要だと強く感じました。	
今回の事業において、継続して事業を行えたことは、地域の人にも居場所として認識してもらう第一歩になったと思います。	
取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	
①継続的な学習支援活動…月に1回以上を目途に実施しました。夏休みは隔週で実施しました。不登校の子などにも配慮し、個別にも対応して個別指導を行いました。教育格差が特に出ていた英語教育、つまづきや苦手意識を持ちやすい算数、数学の学習の希望が多かったです。気軽に相談できる場所としての居場所づくりも併せて行っていました。	
②水泳教室の開催…海なし県さいたま市における水泳授業は年々減り続け、泳げない子が増える中、市民プールさえも奪われ、泳げるようになる機会を失っているため、地域の課題として必要不可欠な活動だと実感しました。初心者を中心に募集をかけましたが、多くの問い合わせがありました。近隣だけではなく、埼玉県内の多くの場所からたくさんの親子が参加してくれました。	
③ものづくりイベントの開催…イベントを開催することで、この事業を知ってもらえました。イベント参加者が、水泳教室や学習会に参加、紹介をしてくれ紹介の輪が広がりました。	
事業実施により達成した成果の具体的な内容	
月に一回を目途に学習会を行いました。希望者が多く、実施日以外にも多くのお子さんの勉強のサポートを行いました。今回の参加者の中には、『塾に行くには厳しいけど、わからないところを親が教えてもらってだけでも困っていません。本当に助かりました。』と、その後、紹介で来た参加者がまた紹介をしてくださる紹介者の輪ができました。不登校気味の子、学校では座っていられない子、集中ができない子、場面寡黙症の子などさまざまなお子さんがいらっしゃいました。	
父兄の相談も多く受けました。そして、こういった場所や活動がいかに大切かという事を実感しました。月1回では足りないという事も実感しました。	
水泳教室では、学校での水泳授業があまりないし、市民プールは潰されるし…どうしたら良いかという声を多く聞きました。1日で泳げるようになった子。	
水が怖くなくなった子。水泳が楽しくなった子。皆さんにとっても感謝されました。これが県の助成金による事業だと伝えたら、皆さんとても感謝していました。	
ものづくりのイベントを行うことで、誰でも気軽に参加できるものなのだとことを認知してもらいました。	

費用面での工夫
できるだけコストをカットすることを考え活動を行いました。消耗品や水泳用品など必要不可欠なものも、貸していただけるように手配していただいたり、地域のサークルと連携し、お借りできるものはお借りしました。学習会においても、当初の開催日数よりもはるかに多くの回を開催しましたが、そのほとんどがご厚意によるボランティアで行われました。
ものづくりのイベントでは、中高生がボランティアに来てくれて、一緒に楽しく過ごすことができました。
とはいえ、人のサポートをするためには、人の力が必要となります。すべてがボランティアという訳にはいかないのも現実です。
サポートする側の人件費の捻出が一番大事なことだと実感しました。
ものづくり教室では、安い材料でもアイデア次第で才能を発揮できることを実感してもらいました。
地域社会への還元
さいたま市を拠点として活動しておりますが、132万人もの人口の中には生活保護は受けられないけど、現実はあるすごく厳しい状況の家庭がとて多いようです。大きな声は出せないけど、小さな声で訴えている人の声を地域として、一つ一つ拾いあげて、心の支えになることが私たちのできることだと思います。
少子化対策、貧困対策、不登校対策など、どれも根は同じなのではないかと感じました。教育費にお金がかかるから子供は作らない。一人しか産めない。
こういう現実に向き合うには根本を変えていく必要があると感じました。昔ながらの寺小屋や地域で子供を育てる態勢ができればそれは素晴らしいことです。
教育を受けたい子に場を提供する。災害大国の日本において、水害時に動揺しないためにも、泳げない子を一人でも減らすための場を提供する。
また、中高生が自習室難民となっている現実も知り、空いている時間を自習室として解放しました。自習室として解放するには狭いスペースですが、地域の子供たちにはとても喜ばれています。今回の事業を行い、多くの困りごとを聞き、少しずつですがニーズに応えられていると思います。
今後どのように事業を継続し発展させるか
学習支援教室は思った以上に反響が大きく、希望者が多く、当初の予定よりも多く開催いたしました。自習室や居場所が欲しいという意見をたくさんいただき自習室として多くの日を解放しました。無料学習支援教室は続けてほしいという要望が多くありましたが、無料で行うには現実問題として厳しく、フリースクールを開校できないかと考えております。要望の多い自習室や、居場所については、今後どのようにしたら実現できるのか探っていききたいと思います。
水泳教室を行った際には、子供だけでなく泳げない大人の方もいらっしゃいました。障がいのある方もいらっしゃいました。大手スクールには通えない方からの相談も多くいただきました。このような活動を行っているところが全くないようで、とても感謝していただいたので、何とかこのような活動が続けられるように資金面も含めて考えていききたいと思います。地域で活動している他団体とも情報交換をしながら、今後も事業を継続して行きたいと思っています。

事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人アシストさいたま

1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	500,000	500,000	0	
自己資金	113,238	112,652	△ 586	
活動実施による収入等	0	0	0	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	613,238	612,652	△ 586	

2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	11,880	11,880	0	
通信運搬費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
消耗品費	84,500	84,960	460	
備品費	0	0	0	
委託費	63,658	62,612	△ 1,046	
謝金	110,000	110,000	0	
人件費	343,200	343,200	0	
その他	0	0	0	
支出の部 合計	613,238	612,652	△ 586	